



お江戸舟遊び瓦版 1046号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり
お江戸観光エコシティー・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

南摩ダム・渡良瀬遊水地見学会

日時：24年6月29日（土）

所：南摩ダム（鹿沼市）、渡良瀬遊水地
主催：市民防災まちづくり塾

[市民防災まちづくり塾ウェブサイト \(npo-tmic.org\)](http://npo-tmic.org)

案内役：土屋信行（ぼうさい語り部）

はじめに：思川開発事業は、思川の支流南摩川に南摩ダムを建設し、洪水調節を行うとともに思川支流の黒川、大芦川と南摩ダムを導水路で結び、水を融通しつつ効率的に水資源開発を行う事業だ。現在、南摩ダム本体工事が行われており、今年度末に完成予定。今回は、この「南摩ダム」と思川下流、渡良瀬川が合流する地点にある渡良瀬遊水地（谷中湖）を見学した。



第五建設局古井戸

集合場所の新小岩駅東北広場から直近の東京都建設局第五建設事務所の未来に伝える「古井戸」を見に行った。昭和13年に地下60mの硬い地盤まで掘りぬいた井戸で、大正時代～昭和40年代まで地下水を汲み上げた分だけ地盤沈下し、井戸水揚水管が露出・突出した。葛飾区は東京都の江東周辺に次ぐ軟弱地盤地帯で、年に5cm近い地盤沈下が見られていた。井戸はその経過を知る資料だ。



南摩ダム（昭和44年調査～令和6年完成予定の長丁場建設）

バスは新小岩を出て、荒川に並行する首都高、東北自動車道を経て、南摩ダムに到着した。



名解説土屋信行氏



荒川河川沿いを走る



美濃部時代の都営・白髭防災ビル



周辺の長閑な風景



南摩ダム周辺の地図



ほぼ完成の南摩ダム

渡良瀬遊水地：



2019年台風19号襲来時、水位がここまで上がった！！



渡良瀬遊水地（谷中湖）



谷中村跡地に東屋



谷中村跡地標識



その跡地にはイノシシが散歩 足尾鉍毒事件の重鎮・田中正造 大地震時等に高潮から守る「今井水門」

渡良瀬遊水地展望台で5年前の台風時に、柱の上の印まで水位が高まったとの説明に驚いた。足尾銅山の重金属を沈殿させるために廃村になった谷中村・渡良瀬遊水地（谷中湖）は緑一杯だった。その跡地にイノシシが出没し、イノシシ出没注意が気になった。帰路、今井水門に注目した。

足尾銅山鉍毒事件：19世紀後半の明治初期から栃木県と群馬県の渡良瀬川周辺で起きた、日本で初めてとなる公害事件。足尾銅山の開発により排煙、鉍毒ガス、鉍毒水などの有害物質が周辺環境に著しい影響をもたらし、1890年代より栃木の政治家であった田中正造が中心になり国に問題提起し、100年後の1972年に調停が成立した「100年公害」で、古河鉍業に加害者責任を認めさせた。

所感：調査開始から50年を超す南摩ダム見学会に参加した。「コンクリートから人へ」の開発工事の転換期を経て苦戦した現場で、建設の苦労を痛感した。渡良瀬遊水地の要因となった足尾銅山鉍毒事件は、偉人田中正造の活躍に遅れること100年後に解決した。東京一極集中で都民の水問題は大きな課題、江東地区の地盤沈下問題も都民の生活・生存に関わる大問題だ。地球温暖化が大問題化する中、根本的な課題の東京一極集中を民主的に対策しなければならないと思う。（文責 中瀬）